傳神開手
北齋漫畫七編
全
7

尾張東壁堂藏版画譜畫手本目録

北齋漫画　冨嶽百景　文鳳麁画
北齋臨画　一筆画譜　蕙齋麁画
北齋画譜　金氏画譜　神事行燈
北齋画圖　英泉画譜　狂画苑
北齋画鑑　英勇画譜　浮世画手本
北齋庭訓　浮世画譜　福善齋画譜
北齋女今川　珖琳漫画　武勇魁圖繪

書肆　名古屋本町通七丁目　永樂屋東四郎

きのふは深川のこゝろ廣幡の八幡の宮所を尊み神乃ちかひ
まゐらせ給ふところ大かたは雪の中は橋場の浅
茅が原にかくれほとゝぎすきゝに只友たちのいひさはぐ窓の
すだれの日と送りける筋ふかくしく言やさとうきよふ
木々の梢も青葉一頃めくさつきはなれて空も出る緑
なつふかき雲のやうくさゝめくにむらがる出来くらいゞふ
あやしき峯といひし今まで程つれときくるにきこえよれ
なつかしく筑波の山とこそ見ゆれ猿橋をまてつる田鶴乃諸越の雲
昇りひゞくは尾張の桜田ならず一筑波根乃雪は日金
海月の旭にかゞやきそへいのものゝみよふまさろかと思ふ住の江

乃夏と三保の浦は霞にかくれて幾世経ぬらん松るかへし

しほのかなる久米路の橋は肝を失ひ秋田も落ちて月を朧る

うして天地のそのほかく大きなることをさへ花を紅葉に

月に雪に春秋のながめも只ひとつにすゝむかの花やましてためし

うき宇津の山もいふさらなりきとは小野の瀧のこかげの落る

音耳にいまさらなるをきゝつけぞはつれし吾家の窓のもと

まで枕におとしそめしてふなるはしらなき

式亭三馬

七編

芭蕉之像

尾張
櫻田比雀

常陸
筑波の積雪

阿波の鳴戸

下総
夏屋の里夕立

甲斐の己山
攝津住吉

肥前 稲佐 辨天
越後 八房の梅

肥後
五ケの岳

上総
八幡の御木

甲斐の
猿橋

肥前 平戸
生月嶋
薩摩

下総
行徳の

下総
隅田川の雁
上毛
妙義

相模
走り水

信濃　小野の瀧

駿河
三保の松
甲斐
鰍澤

武蔵
氷川

武蔵
待乳山
伊豆
日金山

安房
鋸山
伊豆
手石濱

備前
牛窓

豊州 石太神
肥前 長崎ヨリ 五島ヲ見ル

壹岐
志作
御厨
七ッ嶋

肥前
寺沢
五嶋灘
相模
三崎

信濃
粂の岩橋

出羽
秋田の蕗

総列鉋手
胎内潜り

同 神の嵜

相州
下総

勢州
山田ヶ原
同
八幡の森

総州銚子
女夫が鼻

甲州 矢立の杦

相模
浦賀

近江
湖水

上毛 榛名

奥州
外ヶ濱

武州
霞ヶ関

隠岐
焚火の社

下野
行道山

遠江
今切
相模
森戸

甲州
三嶌越

武蔵
挟山之池

俳諧五七集　全五冊

枇杷園先生ハ一世の雅英にて雄名海内にとゞろき生涯の俳諧数しらず多き中にも精選して風流新奇なる数篇をゑらび三十五部をつらねてなづけて五七集といふ是まで先生生涯の俳諧ハ見るにたらざる事なく善尽し美尽せ世系をのこし其の流れをくむ人ハ勿論他門の人も見ればたちまち玉をつらね金をちりばめし詞花言葉にしてその余の群英の句までひろく識るべき重宝とハ此書なり

尾陽書肆　東壁堂欽白